

## 中央アルプス・中小川溪谷～越百山

2009年10月9日（金）夜～11日（日）パーティー：単独

<はじめに>

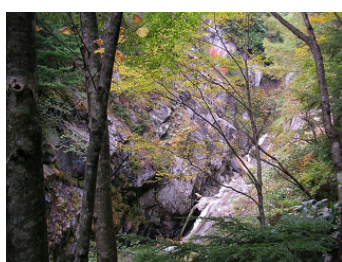
当初、白山の丸石谷の予定だったが、単独での黒滝高巻きに不安を感じていたのと、晩秋台風につきもの

の寒気流入で日本海側天候不順予想のため、中止した。それでは、太平洋側寄りでどこかいいところはないかなと

考えたところ、中小川溪谷が、いつかの山岳雑誌で紅葉がきれいだと紹介されていたのを思い出した。

<10月10日（土）>

ゲート前駐車場から、与田切川本流右岸の林道を進む。本流にかかる橋を渡って2番目の広場が登山口である。



気が向けば、部分的にでも沢遡行しようと、軽量沢タビ&ヘルメットのいでたちで出発。これより源流稜線直下まで

危険&要注意箇所が多数あるが殆んどすべてに固定ロープ・鎖が設置されており、赤テープ・標識もほぼ完備している。

熊笹帯をしばらく進んだ後、少し中小川河原を歩いて、また右樹林帯に入り、相生の滝ゴルジュ帯を高巻いてゆく。

このゴルジュ帯を遡行できる沢屋さんはまずいないだろう。

やがて、右からゴルジュ帯に落ち込む乙女の滝中段に鎖を頼りに下り着く。

乙女の滝を渡って、さらに高巻いてゆくと、相生の滝落ち口に下り着く。対岸に鎖が見えるので流れを飛び越えるが、

台風後のためか水勢強く、失敗すると相生の滝からダイブしかねないので、慎重を期す。

河原に降りたり、左小巻きしたりしながら、上流へ進むと、左から大ガレが出合う。谷奥には飛竜の滝ゴルジュ帯の

最初の滝が左から流下するのがかいま見え、その右に沢遡行高巻きルートのガレが見えている。

このゴルジュ帯を遡行できる沢屋さんもまずいないだろう。さて溪谷道は、左大ガレをトラバース気味に少し登って

から、右の小ガレ沢を少し登ると、通称「カモシカ落とし」の悪場である。

木の栈道を慎重に登りきり、さらに進むと、「飛竜の滝」が見えてくる。

実は、飛竜の滝は支流の仙涯沢にかかっている、飛竜の滝ゴルジュ帯を沢遡行高巻き後は、飛竜の滝の落ち口に出る

ようである。そのため仙涯沢を本流と勘違いすることもあるようである。

飛竜の滝の眺めをしばし堪能した後、しばらくで、中小川本流に降り立つ。この頃より、時折、小雨&アラレ雪の舞

うあいにくの天気となる。加えて、アキレス腱がまたぞろ痛み出したこともあり、引き続き忠実に溪谷道を辿ることに

する。以後、源流まで、溪谷道は、沢沿いを大きく離れることなく進んで行く。

形の良い滝もいくつかあり目を楽しませてくれる。